

いちご状血管腫の内服治療について

いちご状血管腫とは



皮膚の表面や体の内部にできる未熟な毛細血管が増殖して現れる良性の腫瘍です。

皮膚から盛り上がり、いちごの様な外観を呈します。

生後数日～数週間後から出現し、6～12か月で急速に大きくなり、5～7歳までに数年間かけて赤みは少しずつ消えていきますが、多くの場合「あと」(瘢痕:はんこん)が残ります。

治療の必要は？

放っておいても、数年の間に自然に赤みが消えていく病気ですが、たるみなどの「あと」が残る場合があるため、お子さんが成長した際に困ると思われる場所や大きさのときは、治療が行われます。

鼻や口、首などにでき、気道や食道を圧迫して呼吸や哺乳の妨げになったり、眼や耳に近い場所など感覚器に影響を及ぼす場合、血管腫が急激に大きくなっている場合、出血しやすい、ただれやすい、「あと」が残りやすい場合などには積極的に治療が行われます。

部位・大きさから整容的な問題がある場合も治療がすすめられます。



治療法について

今までは、レーザー照射や外科的切除などが行われていましたが、最近になり内服薬(β遮断薬など)による治療が可能になりました。レーザー照射だけでは増殖を抑えられないほど大きな血管腫や、レーザーが届かないほど深部の血管腫には特に良い適応と考えられます。また、痛みなく治療を開始することができます。このくすりはもともと心疾患の治療に用いられていましたが、血管腫に有効なことがわかり、最近使用されるようになりました。

当院でも、いちご状血管腫に対する内服治療を行っています。

低血圧や低血糖などの副作用が生じることがあるため、治療導入にあたって、5日間～1週間程度入院していただきます。その後は、外来で治療を続けます。半年間程度の治療期間となります。



お子さんにいちご状血管腫があり、治療をすべきかどうか悩まれている方はお気軽に当院までご相談ください。